

# 令和4年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加南高等学校)

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、グローバルな視点をもって社会に貢献する人材を育成する
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実践、指導と評価の一体化を進め、学習指導の質を高める 2 一人ひとりの生徒理解を基礎とする、自主性を促しつつ、適切かつ組織的な生徒指導をすすめる 3 多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する 4 グローバル人材育成事業及び本校独自のプログラムを通し、地域に開かれた学校づくりを推進する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(令和5年1月26日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的な学びとICT活用の授業実践を推進し、主体的な姿勢が定着しつつある。この現状を踏まえ、</li> <li>①観点別評価の基準を明示</li> <li>②対話的学びの質の向上</li> <li>③観点別指導方法の研究を実践し、さらなる授業改善および主体性ある姿勢の定着を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①評価基準の明示</li> <li>②授業力向上</li> <li>③主体的学び力の向上</li> <li>④探究活動等新たな学びの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 観点別評価基準を明示する。</li> <li>2 対話的学びの手法と評価の研究・研修を行う。</li> <li>3 朝学習、学習支援アプリ、家庭学習等を活用し、目標意識を高め、主体性を向上させる。</li> <li>4 国際バカロレア教育検討事業を通して、教科横断的学び・探究及び授業改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 評価基準の明示とガイダンス</li> <li>2 授業公開、研究授業を踏まえた対話的授業やICT指導法の研究研修</li> <li>3 学習支援アプリ利用頻度の向上</li> <li>3 成績優良者の増加(昨年度1,2学期平均 11.5%)</li> <li>3 授業理解度の向上(昨年度87%)</li> <li>4 探究や教科横断的思考を通して、広い視野の学びを実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 観点別評価基準を作成し明示した。</li> <li>2 評価分析を踏まえ各学期に全体研修および教科研究を実施し修正を加えた。</li> <li>2 授業力向上研修として、研究授業を3回、タブレット活用研修は2回実施。</li> <li>3 リクルート社調べで全国平均を上回る活用状況となった。特に2学期が高い。</li> <li>3 スタサプEを導入し、英検合格率2倍。</li> <li>3 成績優良者数は11.9%、授業理解度は90%(そう思う44%、ややそう思う46%)</li> <li>4 地域交流、発表学習等が再開できた。</li> </ul>	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活習慣や規範意識は、概ね良好である。</li> <li>社会環境の急変により、様々な懸念をもつ者もいる</li> <li>協働、対話的活動の拡大による相談できる関係構築</li> <li>受動的な規範意識から、自律的意識への変容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①交流を生む活動の推進</li> <li>②的確迅速な生徒把握</li> <li>③生徒理解の共有と組織的指導</li> <li>④柔軟な指導への改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 対話的・協働的・交流的な教育活動の研究・導入・実践</li> <li>2 ICTを活用した生徒理解、生徒把握の推進</li> <li>3 メンタルヘルスの研究推進</li> <li>4 特別支援教育の組織的な取組</li> <li>4 生徒指導規定の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 感染防止と教育活動の充実の両立</li> <li>1 対話的学びなど交流活動の実践</li> <li>2 HP・SNS等を活用した生徒理解</li> <li>2 アンケート調査と面談等の充実</li> <li>3 推進校としての研究および実践</li> <li>3 教育相談機能の充実</li> <li>4 学年と委員会の組織的な連携</li> <li>4 新たな視点で指導方法を見直し、規定として可視化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 3年ぶりに遠足を実施した。</li> <li>1 学校行事の保護者公開を推進できた。</li> <li>2 アンケート及び相談申請のICT化した。結果を踏まえ迅速で組織的対応が実現。</li> <li>3 メンタルヘルスの授業と共に、教員の相談対応研修を実施した。</li> <li>4 特別支援教育担当を増員。学年、CO、保健室、SC等の連携が深まった。</li> <li>4 スマホ、自転車通学、運転免許等指導規定を見直し、全職員で具体的な指導方法を確認、共有した。</li> </ul>	A
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路志望に全職員による指導体制で臨む。</li> <li>変化する大学受験に早期に対応するため、教育課程を改めた。段階的なガイダンスが必要である。</li> <li>情報教育や外部検定の充実を推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①体制の整備</li> <li>②ガイダンス計画等の改善</li> <li>③情報教育、ICT活用推進</li> <li>④外部検定等指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 全職員が指導できる共通意識と環境の整備</li> <li>2 早期から意識醸成を図るガイダンス計画の改善</li> <li>3 ICTの活用と情報教育の工夫</li> <li>4 英語検定等の受験推奨及び指導の工夫改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 全職員の3年次進路指導への関与を踏まえた他学年指導への活用</li> <li>2 ガイダンス機能の向上及び実施計画の早期化の実現</li> <li>3 進路指導、キャリア教育、補習等におけるICT活用の推進</li> <li>4 英語検定等の受験者数及び合格者数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 職員対象の面接指導研修、小論文指導研修を実施し、3年進路指導に全員で関与。</li> <li>2 新入生保護者対象進路説明会(5月)</li> <li>2 3年次保護者説明会の2年次3月開催</li> <li>3 タブレット等を活用した探究活動を実践。1月に3年代表者が全校集会で発表。</li> <li>4 スタサプ英語を導入。英検合格者倍増。</li> <li>4 本校独自方式で準備を進め、来年度一人1台タブレット導入を決定した。</li> </ul>	A
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部との交流、行事の公開、中学校訪問等が制限されるなか、教育活動を工夫して実施し、さらに発信する工夫も必要である。</li> <li>HPやgoogle等を活用し、発信や連携の強化を模索する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動の</li> <li>①実施の工夫</li> <li>②内容の精査</li> <li>③公開の推進</li> <li>④発信の拡充</li> <li>⑤地域、保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 できる工夫、内容精査を検討し、教育活動を実施する。</li> <li>2 生徒の活動を保護者地域に公開・発信し、連携を深める。</li> <li>3 ICT活用等の周知</li> <li>4 感染状況に応じた迅速対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学校行事等の実施状況</li> <li>1 内容等の工夫・改善状況</li> <li>2 地域、保護者への発信、公開状況</li> <li>3 発信・連携のICT活用の推進状況</li> <li>4 感染防止策の徹底と改善状況</li> <li>4 オンライン授業等の対応状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 HPでは施設紹介の新設ときめ細かい掲載により、効果的な情報発信ができた。</li> <li>2 地域交流、社会貢献活動の実施が拡大できた。</li> <li>3 健康観察、アンケート等のICT化を推進。</li> <li>3 体育祭、文化祭等の行事公開を拡大した。</li> <li>4 濃厚接触者等の生徒にも、オンライン授業を提供した</li> </ul>	B

学校関係者評価	
実施日(令和5年2月3日)	学校関係者からの意見・要望・評価等
	<p>丁寧な学習指導が行われ、生徒の主体的な学びが行われている。ICTを活用した授業等に生徒が積極的に取り組んでいる。タブレット導入を機に授業等を一層充実させてほしい。学習支援アプリの活用成果を校内で共有し、引き続き取り組んでほしい。</p>
	<p>各行事をコロナ感染対策を行いながら、外部への公開を行えたことは良かった。生徒指導について、不登校生徒への対応をはじめ、生徒理解に努めながら引き続き努力してほしい。自転車事故の増加が心配である。ヘルメットの着用をはじめ、交通安全対策を一層進めてほしい。</p>
	<p>丁寧な進路指導が行われている。生徒も概ね満足しているようだ。英検合格者の増加した取り組み(アプリの活用)等の成果を次年度にも引継ぎ、さらに発展させてほしい。</p>
	<p>コロナ禍にあっても工夫しながら教育活動が行われたことは評価できる。次年度も工夫をして情報発信に取り組んでほしい。中学生の興味・関心にこたえることを意識してほしい。</p>